

はままつ



令和4年4月28日

〈重点教育目標〉「わかる、できる、つかえる、伝える」を

実感できる子の育成

八雲町浜松239 TEL62-2462 FAX62-3190

校長 伊藤 明彦

新年度が始まり、1か月ほどが経ちました。子ども達は、進級したそれぞれの学年で目標をもって元気に過ごしています。先日、6年生の主催による「進級おめでとう会」が行われました。これは、今年度「1年生を迎える会」がないことを残念に思った6年生が発案し、企画、準備を進めてくれたものです。全校児童で楽しい時間を過ごすことができたのはもちろんのこと、6年生の最高学年としての自覚と意気込みを感じることができ、とてもうれしく感じたひと時でした。

子ども達の成長とICTとの関わり

近年のネット環境の普及によって、子ども達にとってスマートフォン、タブレット等のICTデバイスはより身近なものになってきています。さらに、学校においてもGIGAスクール構想による1人1台端末が整備され活用が始まりました。学校におけるICT活用は主に以下のようなメリットを考えて、授業や家庭学習等における活用を進めています。

- ・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる。
 - 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能になる。
- ・各人が同時に別々の内容を学習できる。個々人の学習履歴を記録できる。
 - 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能になる。
- ・一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有、子供同士で双方向の意見交換が可能になる。
 - 各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる。遠隔地との学習交流ができる。

ただ、学校においても、家庭においてもICTの活用はメリットだけを生み出すものではないとも考えています。

例えば、パソコンやタブレットなどの機器を使うこと自体に重きが置かれることによって、紙と鉛筆を使って手書きをする機会が減ってしまうこと、分からないことはインターネットですぐ調べられる環境が当たり前になり、子どもたちの想像力や考える力が低下してしまうことも考えられます。

他にも、有害なWEBサイトの表示・閲覧による直接的な被害はもちろん、インターネットの長時間利用による健康との関連については、生活習慣の乱れ、目の疲労、頭痛などの身体的不調、心疾患等、心身に悪影響を及ぼす可能性が指摘されています。また、インターネットの使用と心理・社会的発達や社会的不適応との関連については、インターネットへの依存が心理・社会上の重大な問題を引き起こす可能性や、現実からの逃避、引きこもりを助長する可能性、インターネットが反社会的行為の仲間集めや遂行の手段として用いられること等も指摘されています。

もちろん、ICTの利用により、ただちにこのような心身への問題が生じるわけではありません。私たち大人は、こうした危険性もあることを念頭に置きながら、環境を整備していくことが重要です。例えば・・・

テクノロジーが私たちにどんな影響を与えるのか、スティーブ・ジョブズほどの確に見抜いていた人は少ない。たった10年の間に、アップルを経営していたころの故スティーブ・ジョブズは、いくつもの製品を市場に投入し、私たちが映画や音楽、新聞記事を消費する方法を変貌させた。

コミュニケーションの手段については言うまでもない。それなのに自分の子供の使用には慎重になっていたという事実は、研究結果や新聞のコラムよりも多くを語っている。

スウェーデンでは2～3歳の子供のうち、3人に1人が毎日タブレットを使っている。まだろくに喋ることもできない年齢の子供がだ。

一方で、スティーブ・ジョブズの10代の子供は、iPadを使ってよい時間を厳しく制限されていた。ジョブズは皆の先を行っていたのだ。テクノロジーの開発だけでなく、それが私たちに与える影響においても。

絶対的な影響力を持つIT企業のトップたち。その中でスティーブ・ジョブズが極端な例だったわけではない。ビル・ゲイツは子供が14歳になるまでスマホは持たせなかったと話す。

現在、スウェーデンの11歳児の98%が自分のスマホを持っている。ビル・ゲイツの子供たちは、スマホを持たない2%に属していたわけだ。それは確実に、ゲイツ家に金銭的余裕がなかったせいではないのだ。

【アンデシュ・ハンセン著/スマホ脳(新潮新書)新書】より

iPhone や iPad の開発者であるスティーブ・ジョブズ氏や windows の開発者であるビル・ゲイツ氏が、家では、スマートフォンが普及し始めた当初から子どもたちがテクノロジーを使う時間を制限していたのは有名な話です。

私たち大人は、子ども達の発達を考え、「子ども達が自身を客観的に見つめ、自分の欲求をコントロールすることができる力」、「状況や優先順位を見極め適切に判断できる力」を育てながら、子供たちが ICT を安全に安心して使いこなすことができるよう、適切にデバイスに触れる機会をつくっていく必要があると考えています。

令和元(2019)年5月、WHO(世界保健機関)総会にて約30年ぶりに国際疾病分類を第11版の改訂(ICD-11)し、「ゲーム依存症/ゲーム障害」が新たに疾患として加わりました。それ以前からもネット依存・ゲーム障害は存在し、問題視されてきました。学校現場でも深刻な問題の1つととらえられています。

我が国にはネット依存・ゲーム障害の治療施設は89カ所(令和2年現在)あり、その診療科のほとんどは精神科です。これらの施設での患者数は年々増加しており、ネット依存患者の約70%はゲーム障害患者であると言われています。また、ゲームに使う機器では、スマートフォンが最も多くなっています。

ネット・ゲーム依存の有病率は、男性で人口の約3%、女性で約1%と言われ、日本では100万人以上いるといわれています。また、潜在的に依存症リスクをかかえた相当数の予備軍がいると予想されています。



5月の主な行事予定

2日(月)	児童会活動	16日(月)	5時間授業	クラブ活動
3日(火)	憲法記念日	17日(火)	ALT来校	内科検診
4日(水)	みどりの日	18日(水)	PTA役員会	
5日(木)	こどもの日	20日(金)	防犯教室	
6日(金)	春の遠足(さらんべ公園)	23日(月)	5時間授業	児童会活動
9日(火)	ALT来校	24日(火)	ALT来校	
10日(火)	全校朝会 渡複初任研	25日(水)	クラブ活動	
11日(水)	移動図書 知能検査(4年)	26日(木)	眼科検診	
12日(木)	学力検査(3~6年)	30日(月)	5時間授業	児童会活動
13日(金)	遠足予備日	31日(火)	ALT来校	



しっかり止まって、右・左・右 ~交通安全教室より~

4月14日には、交通安全教室を実施しました。曇り空で肌寒さを感じる中ではありましたが、徒歩または自転車で学校を出発し、5号線を渡り浜側の踏切までのコースの中で、安全な歩き方や自転車の乗り方を確認しました。町の交通安全指導員の方々からご指導いただき、カーブや横断歩道での注意事項を実践することができました。今回の経験で「できる」ようになったことを今後の自分の生活の中で確実に生かし、「つかえる」ようにしていくことが大切です。「止まって、よく見て、安全を確認してから行動すること」はご家庭でも適切にご指導いただければ幸いです。

